

繁殖成績改善のために②

二〇一五年八月に掲載した「繁殖成績改善のために」では、
 ① 初回授精開始日数の早期化、
 ② 繁殖管理作業の確実な実施、
 ③ 繁殖管理作業のルール化、
 ④ 分娩前後の綿密な栄養管理による健康状態の維持、が必要だと報告しました。

今回は、初回授精開始日数の早期化（釧路管内の現状は八八日）とそれに伴う発情観察・発見について考えてみましょう。

一 初回授精開始日数と繁殖検査について

牛群の平均分娩間隔の目標値は飼養状態によって異なりますが十三カ月または四〇〇日以下を目標とすることが現実的と考えられます。

一般的に子宮や卵巣の回復が順調であれば初回発情は四五日以内にきます。分娩間隔の目標を一三カ月にすると授精開始日数は分娩後六〇日頃となりますが、それまで何もしなくて良いと言うわけではありません。初回発情日を記録し、その二日

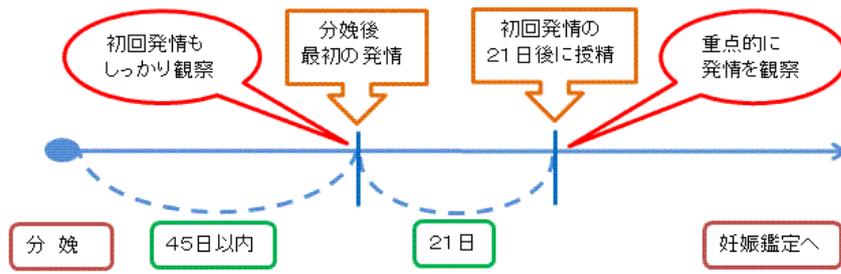


図1 初回発情の発見と適期授精

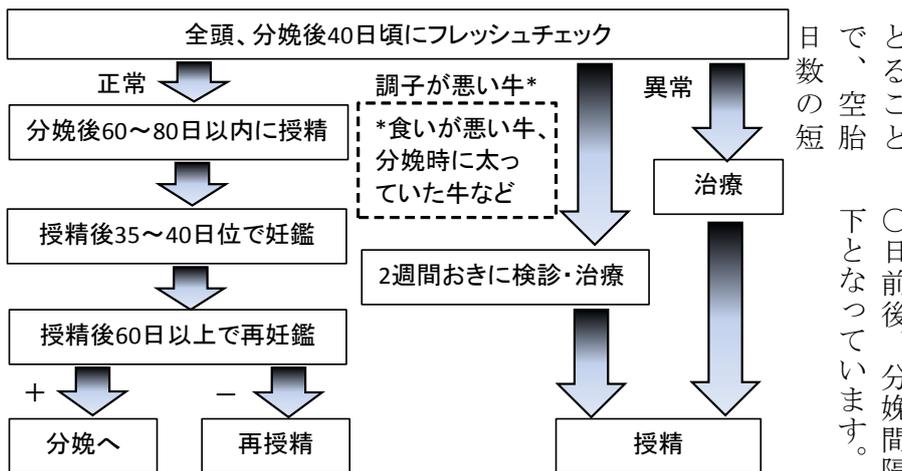


図2 分娩後の繁殖管理の例

表1 発情兆候が始まる時間帯 (Cornel University)

時間	兆候を示す牛	時間	兆候を示す牛
AM6時～正午	22%	PM6時～深夜	25%
正午～PM6時	10%	深夜～AM6時	43%

二 発情観察・発見

乳牛が示す発情兆候を見逃さないことが重要です。特に深夜から早朝にかけての時間帯に多くの牛が兆候を示すのが分かります（表一）。作業時間を考慮すれば実際に観察を行う際は早朝に最も重点を置くことが効率的と考えられます。

○ 発情発見効率化の事例

この農場では、目視による発情観察と歩数計（写真一）のデータを併用することで、発情の見逃しが無くなり、適期に授精できる様になりました。



写真1 使用している歩数計

分娩前後の綿密な栄養管理による健康状態の維持などの事例については、またの機会にご紹介します。

（平成二十八年三月作成）